

## 令和7年度日本医師会 医療情報システム協議会



理事 富名腰 亮

令和8年3月7日（土）、8日（日）に開催された日本医師会医療情報システム協議会に参加した。今回のメインテーマは「医療DX 新時代～現状の課題と未来の展望～」であり、電子カルテ情報共有、地域医療情報連携ネットワーク、オンライン診療、在宅医療における情報連携など、いずれも現在の医療現場に直結する内容であった。

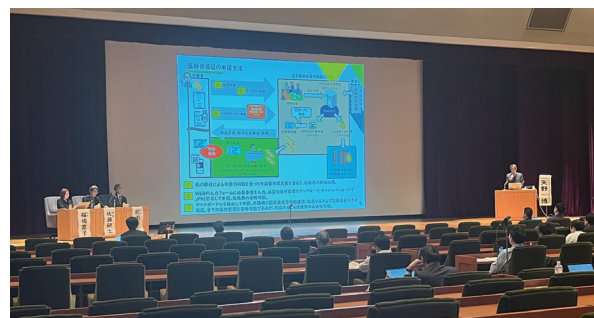
協議会を通して強く感じたのは、医療DXは単なるデジタル化や業務効率化ではなく、地域医療の質を高め、限られた医療資源の中で持続可能な医療提供体制を築くための基盤であるということである。少子高齢化や人手不足が進む中、必要な情報を必要な場面で適切に共有できる仕組みは、今後ますます重要になると感じた。

特に印象に残ったのは、地域医療情報連携ネットワークに関する議論である。急性期から回復期、慢性期、在宅医療、さらには介護へと支援の場が移っていく中で、切れ目のない連携を実現するためには、医療機関同士はもちろん、介護や行政を含めた情報共有が重要となる。協議会では、全国医療情報プラットフォームを「新幹線」、地域医療情報連携ネットワークを「ローカル線」に例える説明がなされていた。両者は競合するものではなく、それぞれ異なる役割を担いながら補完し合う基盤であるという考え方は、大変わかりやすく印象に残った。この議論を通して、沖縄県における

おきなわ津梁ネットワークの意義を改めて考えさせられた。おきなわ津梁ネットワークは、地域の医療機関同士をつなぎ、必要な診療情報を共有することで、地域全体で患者さんを支える基盤となる取り組みである。まさに、地域の実情に応じて機能する「ローカル線」として重要な役割を担っているといえる。全国的なプラットフォーム整備が進む中でも、このような地域に根ざした連携の仕組みは決して代替されるものではなく、むしろ現場に即した医療連携を支える重要な基盤として、今後も役割を発揮していくのではないかと感じた。

さらに、オンライン診療に関する報告も印象的であった。郵便局などを活用した実践に加え、D to P with N型オンライン診療では、患者側に看護師が配置され、機器操作や診療補助を担うことで、オンラインでも診療の信頼性を高めようとする取り組みが紹介された。画像や音声、生体音を高品質で伝送し、在宅患者や介護施設での診療につなげているという報告は、オンライン診療の可能性をより具体的に感じさせる内容であった。

医療DXは今後ますます進んでいくと思われるが、その本質は新しい技術を導入すること自体ではなく、患者さんにより良い医療を持続的に届けることにある。今回の協議会で得た学びを通して、全国的な制度の動向を踏まえながら、沖縄の実情に合った形で医療DXを進めていきたい。



令和7年度日本医師会医療情報システム協議会プログラム

主催：日本医師会

メインテーマ 医療 DX 新時代～現状の課題と未来の展望～

|   |   |
|---|---|
| <p>令和8年3月7日(土)<br/>総合司会：日本医師会常任理事/日医協運営委員会委員長<br/>長島公之</p>  | <p>令和8年3月8日(日)<br/>総合司会：日本医師会常任理事/日医協運営委員会委員長<br/>長島公之</p>  |
| <p>協議会事前セッション開会挨拶<br/>日本医師会常任理事/日医協運営委員会委員長 長島公之</p>  | <p>2日目開会挨拶<br/>日本医師会常任理事/日医協運営委員会委員長 長島公之</p>   |
| <p>・サイバー攻撃・ネット上の悪質な書込み対策最新情報<br/>座長/運営委員(前田委員、佐藤委員、福嶋委員)</p>  | <p>II. 地域医療情報連携ネットワークの現状の課題と未来の展望<br/>座長/運営委員(佐原副委員長、長尾委員)</p>  |
| <p>①HPKI現状報告(5分)<br/>日本医師会総合政策研究機構主任研究員<br/>電子認証センターシステム開発研究部門長 矢野一博</p> <p>②日本医師会ペイシエントハラスメント・ネット上の悪質な書込み相談<br/>窓口(40分)+質疑応答(20分)<br/>・運用について(5分)<br/>日本医師会情報システム課係長 遠藤和也<br/>・事例報告など(35分)<br/>法律事務所マネジメントコンシェルジュ 代表弁護士<br/>村上元茂</p> <p>③サイバーセキュリティ最新報告(30分)+質疑応答(10分)<br/>株式会社Blue Planet-works Director, Security Advisor<br/>嶋原祐輔</p> | <p>①医療DXの全国医療情報プラットフォームと地域医療連携ネットワーク<br/>日本医師会常任理事 長島公之(20分)</p> <p>②地域医療情報連携ネットワークの生き残りを懸けた試み<br/>広島県医師会常任理事 藤川光一(20分)</p> <p>③地域医療情報連携ネットワークの新しい使い方<br/>東北大学病院医療データ利活用センター(MDUC)センター長<br/>東北大学災害医療情報学分野教授 藤井進(20分)</p> <p>④まめネット<br/>島根県立中央病院病院長 小阪真二(15分)</p> <p>⑤HumanBridgeの目指す未来<br/>富士通Japan(株)ヘルスケア事業本部<br/>第二ヘルスケアソリューション事業部 シニアディレクター<br/>柳原毅志(15分)</p> |
| <p>&lt;休憩10分&gt;</p> <p>協議会開会挨拶 日本医師会長 松本吉郎</p>   | <p>⑥庄内地域における地連ネットワーク<br/>日本海総合病院病院統括医療監<br/>地方独立行政法人山形県・酒田市病院機構理事長<br/>島貫隆夫(15分)</p>  |
| <p>&lt;休憩5分&gt;</p> <p>I. 医療DX-厚生労働省からの現状報告と日本医師会の考え<br/>座長/運営委員(川田委員、土屋委員)</p>   | <p>⑦全国医療情報プラットフォームとID-Linkの役割分担<br/>～ユニオン連携の深化と拡大<br/>株式会社エスイーシー取締役副本部長 伊藤龍史(15分)</p>   |
| <p>①国が推進する医療DX-標準型電子カルテ進捗状況(40分)<br/>厚生労働省医政局参事官<br/>(特定医薬品開発支援・医療情報担当) 木下栄作</p> <p>②オンライン資格確認(マイナ保険証と医療DX)について(20分)<br/>厚生労働省医療介護連携政策課長(医政局、老健局兼任)<br/>山田章平</p> <p>③電子処方箋について(20分)<br/>厚生労働省大臣官房総務課企画官(医薬局兼任)兼<br/>電子処方箋サービス推進室長 徳弘雅世</p>  | <p>[総合討論](25分)<br/>&lt;休憩60分&gt;</p> <p>III. オンライン診療と遠隔医療-現状の課題と未来の展望<br/>座長/運営委員(長島委員長、吉原委員、合地委員)</p> <p>①医療法改正-オンライン診療(25分)<br/>厚生労働省医政局総務課保健医療技術調整官<br/>九十九悠太</p> <p>②オンライン診療の現状(25分)<br/>(休日診療所でのオンライン診療・郵便局でのオンライン診療も含む)<br/>山口県立総合医療センターへき地医療支援センター診療部長<br/>原田昌範</p>  |
| <p>④診療報酬改定DXについて(20分)<br/>厚生労働省保険局医療介護連携政策課推進官<br/>保険局診療報酬改定DX推進室長代理補 島添悟亨</p> <p>⑤医療DXに対する日本医師会の考えと取組み(60分)<br/>日本医師会常任理事 長島公之</p>   | <p>③オンライン診療の現状(25分)<br/>仙台市医師会長 安藤健二郎</p> <p>④遠隔ICU(25分)<br/>横浜市立大学附属病院集中治療部長 高木俊介</p>  |
| <p>&lt;休憩10分&gt;</p>  | <p>⑤遠隔手術(25分)<br/>弘前大学医学部附属病院消化器外科准教授 諸橋一</p>   |
| <p>[パネルディスカッション]<br/>(60分)<br/>&lt;移動時間10分&gt;</p>  | <p>&lt;休憩10分&gt;</p>  |
| <p>懇親会(立食)予定(3F小講堂)</p>   | <p>[パネルディスカッション](40分)<br/>閉会挨拶<br/>日本医師会常任理事/日医協運営委員会委員長 長島公之</p>   |